

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項		
				菌核病	軟腐病	灰色かび病	斑点細菌病	腐敗病	すす枯病							
ニマイバー水和剤	ジエトフェンカルブ・ベノミル	混合剤	10・1	◎		◎										
ネクスターフロアブル	イピラサム	その他	7	◎		◎				◎						
バリダシン液剤 5	バリダマイシン	抗生物質	U18		◎				◎	◎						
パレード20フロアブル	ピラジフルミト	その他	7	◎		◎				◎						
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ	ストロビリン	11	◎		◎				◎						
フジドーLフロアブル	塩基性硫酸銅	有機銅	M01		◎											
フロンサイドSC	フルアジナム	その他	29		◎					◎						
ベジセイバー	ベンチピラト・TPN	混合剤	7・M05	◎		◎				◎						
ベルクート水和剤	イミクタジナルベシル酸塩	その他	M07	◎		◎										
ベンレート水和剤	ベノミル	ベンゾイミダゾール	1	◎		◎				◎						
マスタピース水和剤	シュートモナスロテシア	生物農薬	NC		◎		◎	◎								
メジャーフロアブル	ピコキシロトピソ	ストロビリン	11	◎		◎				◎						
モンガリット粒剤	シメナゾール	SBI	3							◎						
ヨネポン水和剤	ニルフェノールスルホン酸銅	有機銅	M01		◎		◎	◎								
ロブラール水和剤	イプロシオン	ジカルボキシミト	2	◎		◎				◎						
ICボルドー66D	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01		野											野：【野菜類登録】生育期後半の散布及び連用によって葉害を生じる場合があるので注意すること。
Zボルドー	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01		野		野	◎								野：【野菜類登録】幼苗期の散布または過度の連用は、葉害を生ずるおそれがあるのでさける。

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名											注意事項			
				ア ブ ラ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ネ キ リ ム シ 類	カ ブ ラ ヤ ガ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ナ モ グ リ バ エ	ハ モ グ リ バ エ 類	ナ メ ク ジ ・ マイ マイ 類				
コンフューザー V	アルミゲルア・ウバルア・タ ^o イモル ア・ヒ ^o ートア ^o ミルア ^o ・リトルア	フェロモン			野	野	野											野：【野菜類登録、ヨトウムシはヨトウムシ・シロイモシ ^o ヨト で適用】 適当な長さの支柱に4本取り付け圃場全体に 配置し、取り付け位置は地上50~60cmとする
ジュリボフロアブル	クロラントラニリブ ^o ロール ^o ・チアトキサム	混合剤	28・4A	◎	◎	◎	◎		◎				◎					
スピノエース顆粒水和剤	スピノサト ^o	スピノシン	5		◎		◎							◎				
ス ラ ゴ	燐酸第二鉄	天然物由来												◎				【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメシコ ^o マイマイ が加害する農作物等で登録】
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A		野	野	野											野：【野菜類登録】
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	ネニコチノイド ^o	4A	◎									◎					
ダントツ粒剤	クロチアニジン	ネニコチノイド ^o	4A	◎														
チューンアップ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A		野		野											野：【野菜類登録】
ディアナS C	スピノラム	スピノシン	5			◎	◎						◎					
デルフィン顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A			野	野											野：【野菜類登録】
トアロー水和剤CT	BT	生物農薬	11A		野													野：【野菜類登録】
トランスフォームフロアブル	スホキサフロル	その他	4C	◎														
トルネードエースDF	インドキサカルブ ^o	その他	22A		◎	◎	◎											
トレボン乳剤	エトフェン ^o ロックス	ピレスロイド ^o	3A	◎														
ナメクリーン3	メタアルデヒド ^o	その他												◎				
ネマキック粒剤	イシアホス	殺線虫	1B									◎						
ネキリエースK	イソキサチオン	有機リン	1B					◎										
ノーモルト乳剤	テフルハ ^o ンス ^o ロン	IGR	15			◎												
バイデートL粒剤	オキサミル	カーバメート	1A							◎	◎							
ハクサップ水和剤	フェンハ ^o レート ^o ・マラソン	混合剤	3A・1B	◎			◎											
パダンSG水溶剤	カルタップ ^o	ネイストキン	14	◎									◎	◎				
ハチハチ乳剤	トルフェンビ ^o ラト ^o	その他	21A	◎									◎		ナ			ナ：【ナメクジ類に適用】
ハチハチフロアブル	トルフェンビ ^o ラト ^o	その他	21A	◎									◎		ナ			ナ：【ナメクジ類に適用】
ファルコンフロアブル	メキシフェノジト ^o	IGR	18			◎	◎											
フェニックス顆粒水和剤	フルハ ^o ンジ ^o アミト ^o	ジ ^o アミト ^o	28		◎	◎	◎											
フォーソ粒剤	テフルリン	ピレスロイド ^o	3A					◎										
プリロッソ粒剤	シアントラニリブ ^o ロール	ジ ^o アミト ^o	28	◎			◎						◎					
プレオフロアブル	ピリダリル	その他	UN			◎	◎						◎					
プレバソンフロアブル5	クロラントラニリブ ^o ロール	ジ ^o アミト ^o	28		◎	◎	◎	◎					◎					
プレバソン粒剤	クロラントラニリブ ^o ロール	ジ ^o アミト ^o	28				◎						◎					

(17) レタス
ウ 土壤消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項		
			ケ ラ	ネ キ リ ム シ 類	ハ リ ガ ネ ム シ 類	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	根 腐 病	す そ 枯 病				
ガ バ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	ダゾメット	I:8F					◎					◎			
キ ル パ ー	カーハムナトリウム塩	I:8F					◎	◎			◎ホ	◎			ホ:【前作のきゅうりのホモプシ ス根腐病蔓延防止】
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	クロルピクリン	I:8B	◎	◎	◎	◎					◎				
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	クロルピクリン	I:8B		◎	◎	◎					◎				
ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤	クロルピクリン	I:8B				◎					◎				
テ D C 油 D	D-D	I:8A					◎	◎	◎						

(17) レタス
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバムトリアム塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	
			前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	

オ 病害虫防除法（レタス）

（ア）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）

露地では9～10月および3～4月に多く、トンネル栽培では低温多湿条件で冬でも発生する。病原菌は好気性菌であり、空気の多い土壌の表層でしか生存しない。被害部の菌核は単独でも土中に生存しているので、ほ場の菌核密度を下げることに努める。

（耕種的防除法）

- （1）被害株を除去し、菌核をほ場に残さないようにする。
- （2）水田裏作を利用すると夏季の湛水期間中に土中の菌核は死滅する。
- （3）ポリマルチを行ない株元の湿度を下げるとともに、子のう盤の形成や子のう胞子の飛散を抑える。
- （4）トンネル栽培では換気に努め、トンネル内が過湿とならないようにする。

（イ）すそ枯病 *Rhizoctonia solani*

（防除のねらい）

病原菌は土壌中または被害組織上の菌核、菌糸塊で越冬し、土壌伝染する。発病は20～25℃の条件下で多く、多湿条件によって助長される。

（耕種的防除法）

- （1）連作を避ける。
- （2）土壌pHを中性付近に矯正する。
- （3）マルチ栽培をする。
- （4）発病葉や枯死株はほ場外に運んで、埋没などの確実な処理を行なう。

（ウ）軟腐病 *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*

（防除のねらい）

年間を通じて発生するが、初夏から初秋までの気温の高い時期には極めて多い。風雨や寒害などで茎葉が傷んだ場合に病原菌は侵入しやすく、発病が多くなる。薬剤防除効果が出にくい病気なので、耕種的防除に重点を置く。

（耕種的防除法）

- （1）排水対策を徹底する。
- （2）7～8月等、作型の無理な早進を避ける。
- （3）トンネルやタフベル等、風害、寒害対策を講じる。
- （4）汚染土壌を落とさないよう留意しながら被害株を除去する。

（化学的防除法の注意事項）

- （1）発病してからの防除は困難なので予防散布の徹底に努める。
- （2）高温・長雨による多湿条件等、発生に好適な場合は周辺ほ場の発生にも注意し、防除が遅れないようにする。
- （3）前年度発生があった場合は菌密度が増加している可能性が高いため、特に注意する。

（エ）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

（防除のねらい）

トンネル栽培では10～11月頃と3～4月頃の発生が多い。やや冷涼な多湿条件下で地際部に発病が多いので下葉の発生に注意し、初期防除に努める。

（耕種的防除法）

- （1）被害茎葉は早めに除去する。
- （2）トンネル内の換気を図る。
- （3）マルチ栽培をする。

（化学的防除法の注意事項）

- （1）発生しやすい下葉にも薬剤が届くように丁寧に散布する。
- （2）薬剤耐性菌が発達しやすいため、散布ムラに気をつけ、薬剤は輪番使用を心がける。
- （3）発生初期に1週間おき2～3回程度、集中的に防除を行い、その後の様子をみて防除の要否を決定する。

(オ) 斑点細菌病 *Xanthomonas campestris* pv. *vitans*

(防除のねらい)

冬季にハウス、トンネル栽培で発生し、湿潤な天候での発生が多い。病原菌は被害組織内で越冬し、降雨時に雨滴と共に飛散、まん延する。病原菌の侵入防止とともに発病株からの二次伝染防止に重点を置く。

(耕種的防除法)

軟腐病に準ずる。

(化学的防除法の注意事項)

薬剤散布は播種30日頃から結球開始期までの間に行う。

(カ) 腐敗病 *Pseudomonas cichorii*, *P.marginalis* pv. *marginalis*, *P.viridiflava*

(防除のねらい)

寒害で傷んだ場合は冬でも発生するが、露地栽培では梅雨期に多発する。収穫が遅れると発生が多くなることもあるため注意する。病原菌の侵入防止とともに発病株からの二次伝染防止に重点を置く。

(耕種的防除法)

- (1) ほ場の排水対策を徹底する。
- (2) 伝染源となる被害茎葉は早めに除去する。
- (3) 適期収穫に努める。

(化学的防除法の注意事項)

薬剤散布は結球初めより予防的に行う。

(キ) モザイク病 LMV, CMV

(防除のねらい)

病原ウイルスはレタスモザイクウイルス (LMV) とキュウリモザイクウイルス (CMV) である。アブラムシによって媒介され、LMVは種子伝染する。アブラムシ防除と健全種子の使用が重要であり、特に9、10月以前に定植する作型ではアブラムシの発生に注意し、定植の遅い作型でも春先の発生に注意する。

(耕種的防除法)

- (1) 寒冷紗や防虫網で被覆栽培するか、シルバーマルチ等を行う。
 - (2) 抵抗性品種を利用する。
- アブラムシの項参照。

(ク) アブラムシ類

(防除のねらい)

発生種は主にモモアカアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシ、タイワンヒゲナガアブラムシで、他に数種類が寄生する。これらはレタスのウイルス病を媒介する。

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

}] ハクサイの項参照

(ケ) ネキリムシ類

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

}] ハクサイの項参照

(コ) オオタバコガ

(防除のねらい)

キャベツの項参照。

(サ) ヨトウムシ (ヨトウガ)

(防除のねらい)

キャベツの項参照。

(シ) ハスモンヨトウ

(防除のねらい)

ハクサイの項参照。

(ス) ナモグリバエ

(防除のねらい)

発育増殖が最も盛んになるのは15～20℃で、発生は春と秋に多い。県南部では冬季でも被害が発生し、春先になると急激に増加する。薬剤防除は卵と幼虫を狙って行う。

(セ) ネコブセンチュウ類・ネグサレセンチュウ類

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

]- サツマイモのセンチュウ類の項参照

(ソ) マイマイ類 (カタツムリ類) , ナメクジ類

(防除のねらい)

キャベツのナメクジ, マイマイ類の項参照。